

令和5年度 事業報告

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

事業の状況

社会の繁栄の基礎は、科学技術の進歩と産業経済の発展にあるとの考えに基づき、わが国の優れた独創的な研究開発を推進し、科学技術の発展と国民生活の向上に貢献したいという当財団設立提唱者市村氏の想いを実現するため、令和5年度も関係各方面の方々のご支援とご協力により以下の事業活動を積極的に展開し所期の成果を収めました。

なお、新型コロナウイルスの影響については、一部事業にてハイブリッド形式の会議体や会場レイアウトの工夫などありましたが、コロナ前の状態に戻りました。

1. 科学技術の研究開発助成

(1) 新技術開発助成

科学技術に関する独創的な技術を実用化するために技術開発の努力をしている中小企業へ助成する事業です。令和5年度は23件（総額325,500千円）の助成を決定し、8月9日及び令和6年2月8日に財団にて贈呈式を行い、助成金を贈呈しました。なお平成30年度の第2次より募集を開始した環境分野については、7件の助成案件がありました。

(2) 地球環境研究助成

人類の継続的発展のためには地球環境の保全、中でも地球温暖化対策が喫緊の課題となっています。このような状況に鑑み、重要課題解決のための研究テーマに対して助成を行う事業です。審査委員会の推薦に基づき4件（総額20,000千円）の助成を決定し、令和6年2月13日に経団連会館にて贈呈式を行い、助成金を贈呈しました。

2. 新技術顕彰(市村産業賞、学術賞、地球環境賞の贈呈)

(1) 市村賞の贈呈

第56回の市村賞は、産業賞（功績賞3件、貢献賞4件）、学術賞（本賞1件、功績賞3件、貢献賞4件）、地球環境産業賞（功績賞1件、貢献賞2件）、地球環境学術賞（功績賞1件、貢献賞2件）合わせて21件（賞金総額96,000千円）の受賞が決定しました。

贈呈式は4月19日に、帝国ホテル東京「孔雀の間」にて行い、表彰状を贈呈しました。

(2) 国際技術交流

市村学術賞、並びに市村地球環境学術賞受賞者が国際会議などの国際研究集会に出席する場合の渡航旅費を助成する参加助成、及び国際研究集会の開催に対する助成です。参加助成11件、開催助成1件がありました。

(3) 市村賞受賞記念フォーラム

市村賞受賞者や第一線の研究者・技術者に最先端の科学技術について講演いただくことで、当財団の活動目的である科学技術の振興を図るとともに地域産業振興への貢献を目的に、市村賞受賞記念フォーラムを開催しました。

今年度は8月4日に札幌パークホテルにて前回同様ハイブリッド形式で開催しました。第55回の産業賞、学術賞、地球環境賞から計5件の講演に加え、基調講演として、早稲田大学 梅津光生名誉教授より「どんな体験も学びのひとつ：医工連携を通じた人との出会い」と題してお話を頂きました。会場の参加者40名、Web視聴84名の方が熱心に聴講され、活発な質疑等が行われました。会場では、フォーラムと併せて財団の各事業の紹介、並びに新技術開発助成で完了認定を受けた企業の開発成果の展示も実施しました。なお、講演後に技術交流会を開催しました。

3. 少年少女創造性育成

(1) 第54回市村アイデア賞

関係者の協力を得ながら、各地に出向いて募集活動を行いました。その結果、7月1日から9月11日までの募集期間に、32,688件の応募があり、前回に引き続き3万件を超える応募数となりました。

審査委員会の推薦に基づき、その中から個人賞として文部科学大臣賞1件、市村アイデア優秀賞1件、審査委員長特別賞1件、朝日小学生新聞賞1件、朝日中高生新聞賞1件、科学技術館館長賞1件、市村アイデア記念賞6件、市村アイデア奨励賞25件、佳作50件、努力賞81件を、団体賞として最優秀団体賞1件、優秀団体賞2件、奨励団体賞3件、努力団体賞10件を決定しました。

11月17日に北の丸の「科学技術館」に於いて表彰式を実施し、賞状、トロフィー、奨学金を贈呈するとともに、佳作に対し楯、努力賞に対し賞状を贈呈しました。なお、個人賞の奨学金と団体賞の賞金の合計は4,730千円でした。

(2) キッズ・フロンティア・ワークショップ

小・中学生を対象に科学技術に関する講話や実験・製作などをおして、科学の原理を楽しみながら理解し、科学技術への興味、意欲を高めることをねらいに(公財)日本科学技術振興財団との共催、文部科学省、朝日新聞社、朝日学生新聞社などの後援で「かがく・夢・あそび」をスローガンにワークショップを実施しました。

今年度は、半日コースを11月17日に市村アイデア賞表彰式後に北の丸の「科学技術館」で実施し、受賞者の小・中学生を含む保護者・引率の先生など合わせて約150名が参加しました。

冬休み1日コースは12月9日、10日に大分市の「コンパルホール」において、大分市・別府市教育委員会の後援、リコージャパン（株）大分支社の特別協賛のもと、小・中学生55名が参加しました。

また、春休み1日コースは令和6年3月9日、10日に北の丸公園の「科学技術館」で実施し、小・中学生66名が参加しました。

4. 植物研究助成

第32回の植物研究助成は、5月12日に贈呈式を植物研究園で開催し、研究者24名に総額33,080千円を贈呈しました。

なお、令和5年度中に募集、審査を行った、令和6年度の第33回植物助成では、20件、助成総額29,646千円の助成が決定しました。

5. 植物研究園の利活用

春の一般公開を科学技術週間に合わせて4月16日～25日の10日間行い、期間中の来場者は475名でした。熱海新聞、静岡新聞に掲載されるとともに、電車内吊広告や三島駅ポスター広告を行いました。

紅葉に合わせて秋の一般公開を11月23日～30日の8日間行い、期間中の来場者は253名でした。